

東郷町 認知症に関する 団体・支援者ヒアリングシート調査 【調査結果報告書】

目次

1	調査の目的	1
2	調査方法及び回収結果	1
3	報告書の見方	1
4	調査結果	2
	(1) 本人や家族の状況（支援を通じて把握していること）	2
	(2) 活動における課題や必要な支援	11
	(3) 認知症支援での課題や必要な取組について	13
	(4) 本人の参画等について	17
	(5) その他自由回答	20

令和8年3月

東 郷 町

1 調査の目的

令和9年度からの「第10期東郷町高齢者福祉計画」に包含する「東郷町認知症施策推進計画」策定の基礎資料とするため、町内の団体・支援者を対象に認知症に関するヒアリングシート調査を実施しました。

2 調査方法及び回収結果

調査方法：郵送配布・郵送回収もしくはWEB回答

調査期間：令和8年1月7日～令和8年1月26日

配布数：42件

回収数：16件

回収率：38.0%

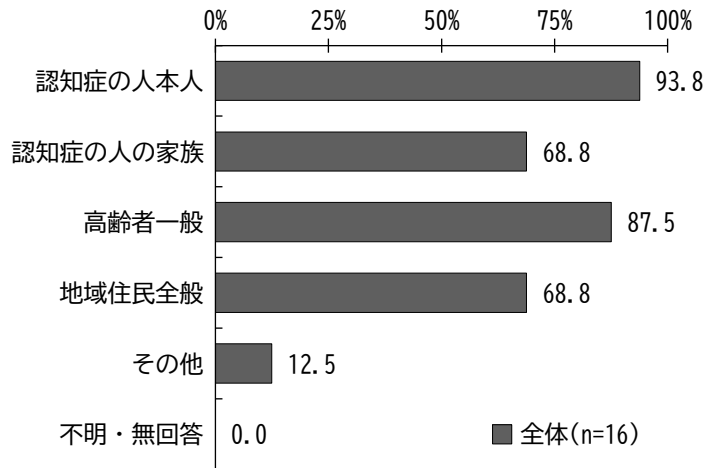
3 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は、有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図中において「不明・無回答」とあるものは、回答がない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

4 調査結果

◆ 主な支援対象者（複数回答）

「認知症の人本人」が93.8%と最も高く、次いで「高齢者一般」が87.5%となっています。



(1) 本人や家族の状況（支援を通じて把握していること）

問1 あなたが、認知症の人ご本人と関わる中で見聞きしたご本人の生きがいややりたいこと、また困っていることなどご本人が発信されていることを教えてください。（自由記述）

※あなたが解決できないにかかわらず、ご記入ください。

■生きがいややりたいこと

記述内容
日常生活が制限されることなく、外出や社会参加できること。
安心して過ごせる、話ができる場所（サロン、デイサービス、認知症カフェなど）に行くこと。外に出たいから誰か誘ってくれると嬉しい。認知症になる前の趣味や付き合いを周囲の理解もあって続けている方は大きな生きがいを感じている。
今まで通りの普通の生活を送ること。自分のことは自分でやりたい。
これまでの付き合いのある人達と楽しく話をすること。習慣や趣味などを続けていきたい。人の役に立つこと。
住み慣れた自宅で暮らしたい。寝たきりになるまで施設には行きたくない。
歌が好きなのでずっと歌っていてもよいこと。 デイサービスを楽しみに来てくれる人が数名いる。囲碁が好き。
これまでの趣味を続けたい、できることは続けたい、好きなことをしたい。 また、外に出て季節を感じたい、散歩すると気持ちがいい、外の空気を吸うと元気になる等、外出は気分転換になる。
夫婦での外出（映画、演劇、美術鑑賞等）を続けること。 家族からは止められているが、車を運転して自由に外出したい。

記述内容
友人との交流が楽しみ。
美味しいご飯を食べたい。他人と話したい。
息子や娘になにかをしてあげたい。 好みの食べ物を食べたい。 自分自身の家に帰りたい、または帰らないといけないと思う。干渉されず自分のペースで動きたい。 介護職員に食べ物を分け与える。
歌を歌うこと。 運動をしたい。
元々通っている通いの場へ通い続けること。
認知症があっても住み慣れた自宅や環境で安心して暮らすこと。
昔の思いが強い方が多く、自分でできることを続けたいという方や、買い物に行きたい、思い出の場所にもう1度行きたい等の意見があった。 新しいことにも挑戦したい、今は薬を飲んでいて、お酒やたばこを飲むことができなくなってしまった方は、お酒やたばこを吸いたいという意見があった。
足や腰が元気で、おしゃべり好きの方には地域の活動の場に参加してもらえればと伝えています。
本人の家族の方から、生きがいややりたいことについて聞かれると辛いと感じる。行くことができるころに迎えが来て、話をする事やご飯を食べると日々。 紙飛行機を飛ばしたり、竹とんぼつくりたいということで、可能な限り実施していく。

■困っていること

記述内容
認知症による生活への不安や、周囲の理解や対応。
周囲の人が勝手に決めてしまう、自分はそんなことを言ったつもりはない、が孤立を深めてしまう。 認知症の初期や軽度の方は、頭の中に“もや”があるみたいで、うまく整理できない・話せないと言う。 また、周囲の人から、運転をやめるよう催促されることや、約束を忘れていと言われるが、自分はそんなつもりはないと話しており、落ち込んでしまい、周囲との関係が悪くなる方をみかける。
忘れてしまうことで、ゴミの分別や買い物の重複、味付けの分量、炊飯の方法、お金の管理、薬の管理などができなくなっていくことに困っている。
カレンダーやメモに書いても忘れてしまう。1日中探し物をして疲れる。息子や娘に迷惑を掛けたくない。 今の生活でいいのに、なぜデイサービスに行かないといけないのか。
何でもすぐ忘れてしまうので、助けてほしいと言う。
自分の家に帰るのにどの電車に乗るのかわからない。 歩いて帰りたいのに帰らせてくれない。 家のお風呂に入りたいのに家族が入れてくれない。
買い物に行くと、メモを持っていても同じものを買って来るため冷蔵庫が一杯になってしまう。行かせないようにしても、隙をみていなくなる。食べ物を捨てる事ができない。
自宅へ帰りたくても帰れない、今までできてたことができなくなっていることへの葛藤やできない自分を見られたくないという思いがある。
書類、手続きなど自分ではわからない。車の運転をとめられて、どこにも行けなくなった。

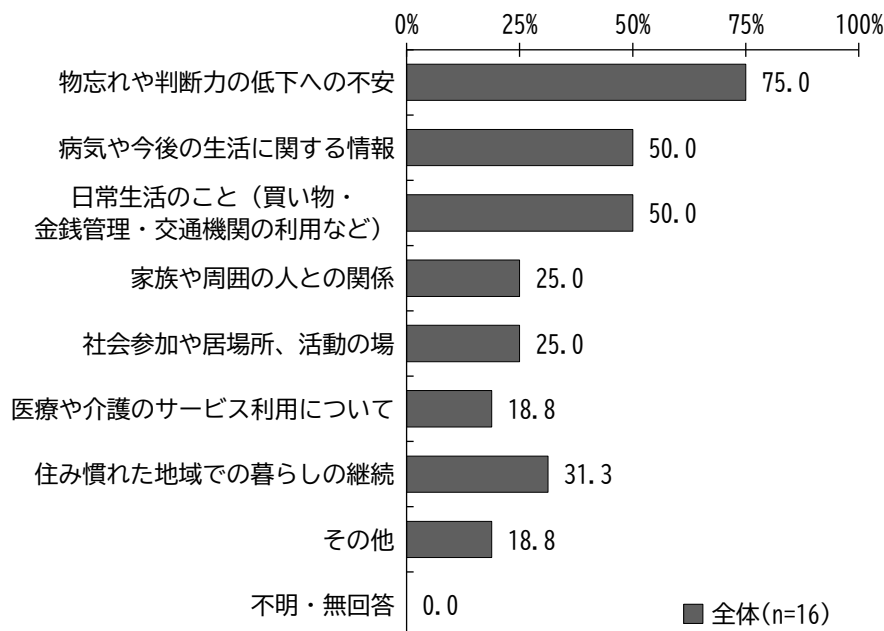
記述内容
同居人はいるが、1人であることが多いので寂しい。 わからないことが多くなり、周りに迷惑をかけてしまっているのもどかしい。
自分の家に帰りたけれど帰り方がわからない。施設から出る方法がわからない。現状がわからない。なぜここにいる、いつまでここにいななければいけないのか。今いる場所がわからない（地域、施設かどうか。自宅ではないことはわかっている）。トイレがどこかわからない。しまっていたはずの金銭や食べ物がなくなっている。家族が面会に来てくれない（実際は月に1～2回面会に来ているが覚えていない）。
数字（日にち等）をすぐに忘れてしまう。
周囲の方の認知症に対する理解・対応支援について。
認知症により、火の元の心配や徘徊、近所とのトラブル、ゴミ出し、排泄など様々な心配がある。
認知症予備軍と伝えることが難しい。

■その他

記述内容
認知症の理解と本人や家族への支援が必要。
車がないと生活が不便になる。
目が見えなくなってしまった。まだ若いのに、デイサービスに行く意味がわからない。
目の前にある見慣れないものを口に入れてしまう。 境界があいまいになり、空気を読んだり、一般常識が欠如してくる（他居室に侵入し、そのまま居室の住居者に笑顔で話しかける、本人の前で盗食し笑顔でそのまま会話してしまう等）。 排泄物を「ただの物」として見ている。
銀行の手続き、役場の手続きなども難しい。家族がいない、または家族が遠方などの対応（インフォーマルサービス等の不足）。
地域での活動の時、本人の変化に気が付き、声かけをしてできる限り色々な場所に参加をお願いした。

問2 認知症の人ご本人からどんな相談や要望を受けることが多いですか。(複数回答)

「物忘れや判断力の低下への不安」が75.0%と最も高く、次いで「病気や今後の生活に関する情報」「日常生活のこと(買い物・金銭管理・交通機関の利用など)」がそれぞれ50.0%となっています。



■ その他

記述内容
要望を伺っても会話が成立しないことがほとんど。
ひとり暮らしで、注意してくれる方がいないので不安。

問2-1 問2で回答された項目について具体的な内容を教えてください。(自由記述)

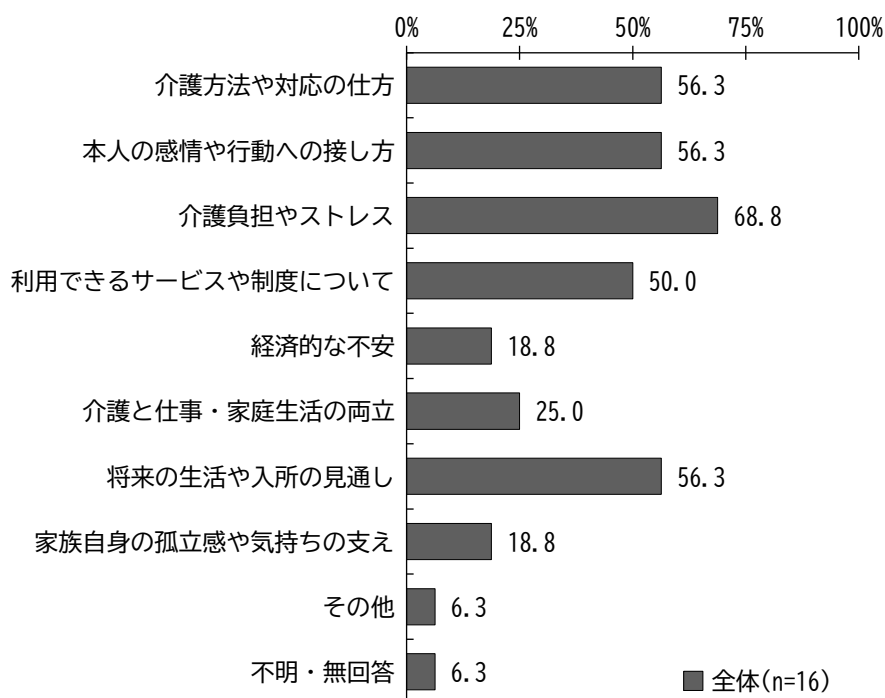
選択肢	具体的な内容
物忘れや判断力の低下への不安	最近よく忘れるとか約束を守らないと言われると聞く。逆に、自信をなくしている方もいる。
	耳では聞こえていても頭に残っていないから、もう1度聞き返す。さっき言ったと言われるけど、確認しないと不安。
	服を着る順番を間違える。メガネをなくす。補聴器が見つからない。
	自分自身でもできなくなっていることにショックを受けて、気分の落ち込みなどを吐露される。
	物忘れが多くなった。何回言われても予定を忘れてしまう。数字(日にち等)をすぐに忘れてしまう。
	サロンや老人クラブの団体の代表を担うが、代表の役割について不安が出てきている。後継者の不足。
	聞かれても何を話していいのかわからない。時間がかかる。すぐに忘れてしまうので、探し物が多い。すぐに名前が出てこない。
	すぐ忘れてしまう。

選択肢	具体的な内容
物忘れや判断力の低下への不安、病気や今後の生活に関する情報	このまま認知症が悪化したら、家で暮らせない。施設へ行かないといけないのか、と暮らしの心配をしている。
病気や今後の生活に関する情報	<p>病気が悪化して日常生活への支障が心配。</p> <p>病気そのものについては、この先どうなっていくのか不安、治る病気なのか、進行を遅らせる方法はあるのか知りたい、家族や知り合いに迷惑をかけたくない、という不安を抱えている方がいる。</p> <p>将来の暮らしに関する不安について、このまま家で過ごすことができるのか、施設に入らないといけなくなるのか、という不安を抱えている方がいる。</p> <p>自分ではできていると思うが、心配なことがあるのだろうか。</p> <p>薬の効果について、どのくらいの進行なら処方されるのか。</p> <p>他の病気になるのは嫌だ。今は家族といるので、何とかなるが1人は困る。</p>
病気や今後の生活に関する情報、日常生活のこと（買い物・金銭管理・交通機関の利用など）、社会参加や居場所、活動の場、医療や介護のサービス利用について	物忘れ等の自覚はあるが診断までは受けていない方は、受診や薬のこと、自分ではできないことが増えた時にどんなサービスが利用できるのか、金銭のこと等幅広い相談がある。
日常生活のこと（買い物・金銭管理・交通機関の利用など）	<p>日常生活のこと（買い物・金銭管理・交通機関の利用など）について、自分の家に帰りたけれど帰り方がわからない、施設から出る方法がわからない、現状がわからない、なぜここにいて、いつまでここにいなければいけないのか、今いる場所がわからない（地域、施設かどうか。自宅ではないことは分かっている様子）、トイレがどこかわからない、しまっていたはずの金銭や食べ物がなくなっている。</p> <p>身の回りの世話をする家族への負担、家族がいない人は必要な援助が受けられるか心配。</p> <p>最近、身の回りでおかしなことが起きる、前はできたのになど、他のことを言い訳にすることがあります。</p> <p>日常生活（買い物・金銭管理・交通機関の利用など）について、買うものを忘れてしまう、乗り方が分からなくなってしまう、金銭管理の不安、通帳やカードをどこに置いたか忘れてしまう事すらも忘れてしまう。</p> <p>交通機関の利用について、バスや電車の乗り換えがわからなくなる、今いる場所がわからなくなり、帰り道が不安になる。</p> <p>家事や身の回りのことについて、車椅子生活のため、掃除や洗濯がうまくできなくなってきた、洗濯機の使い方がわからない。</p> <p>書類が届いても自分ではわからない、手続きができない。</p> <p>なにもかも億劫。</p>

選択肢	具体的な内容
	<p>今までできていたことができなくなるのではないかという不安を訴える人もいる。</p> <p>買い物ができなくなった。お金がスムーズに払えない。</p> <p>1人でバスや電車に乗れない。</p>
<p>家族や周囲の人との関係</p>	<p>家族には迷惑をかけたくないという人もいれば、家族がよくしてくれる、という人もいる。</p> <p>私をのけ者にしている、私はまだボケていないと家族の方と衝突する方をよくみかける。家族も理解が少ないとさらに孤立・攻撃的になる。</p>
<p>社会参加や居場所、活動の場</p>	<p>安心できる居場所がほしい。できたら楽しく過ごせる場所。</p>
<p>社会参加や居場所、活動の場、医療や介護のサービス利用について</p>	<p>どんな雰囲気ですらあるだろうか。カート(歩行器)栄養補助食品の種類、高栄養の飲み物など。</p>
<p>住み慣れた地域での暮らしの継続</p>	<p>自分の家に帰るのに帰り方がわからない。</p> <p>今の生活環境で住み続けることができるのか。</p> <p>住み慣れた地域での暮らしの継続について、今の家で暮らし続けたいという思いや、自分の状況が理解できずに暮らしていいのか、という意見があった。</p> <p>入居している方からは、今まで住んでいた家からの引っ越しや環境の変化が不安との意見があった。</p> <p>老人クラブに参加したい等の意見があった。</p> <p>家や知っている場所で過ごしたい。</p>
<p>その他</p>	<p>自分の家のお風呂に入りたいのに入らせてくれない(足が悪いため)。</p> <p>要望をお伺いしても会話が成立しないことがほとんど。</p> <p>職員が行動をして、認知症の方の反応を見て「相手の快・不快」を判断することが多いが、「快・不快」の反応がなく、別の世界にいるような様子の時が多い。</p>
<p>不明・無回答</p>	<p>周りの人に迷惑をかけてしまっていると思っている。</p> <p>軽度の認知症のときは最近の物忘れが多く、不安な気持ちや施設の情報についての相談を受けることもあるが、中等度になると、本人からの相談は少なくなる。</p> <p>本人が認知症だと思っていない。依存心が強くて離れられない。十分に休むことができない。</p>

問3 認知症の人のご家族からどんな相談や要望を受けることが多いですか。(複数回答)

「介護負担やストレス」が68.8%と最も高く、次いで「介護方法や対応の仕方」「本人の感情や行動への接し方」「将来の生活や入所の見通し」がそれぞれ56.3%となっています。



問3-1 問3で回答された項目について具体的な内容を教えてください。(自由記述)

選択肢	具体的な内容
介護方法や対応の仕方	幻覚や妄想への対応。今のままでよいという本人への対応。
	接し方。男性介護者からは女性下着の買い物について。
	介護方法や対応の仕方について、家族は、日々の関わり方に迷いや不安を抱えていることが多い。パット交換の仕方がわからない、車椅子やベッドからの移乗の仕方がわからないという意見があった。
	介護方法や対応の仕方について、物を盗られたという妄想や物忘れについて、どう対応すればよいか。
	放尿や他居室の侵入について、どう対応すればよいか。
	自宅や施設の外へ出ようとする行為について、どう対応すればよいか。家族の状況を理解してほしいが、会話にならない、忘れてしまい同じ質問をされる。
	本人の受診拒否がある。
介護方法や対応の仕方、本人の感情や行動への接し方、介護負担やストレス	カレンダーに予定を書き込み、予定のある日の前日や当日に伝えても、その時間になると忘れてる。
	認知症の進行とともに、排泄の失敗などできないことが増えることで、何度言っても直らない、言う事を聞いてくれない、とストレスが溜まっている。

選択肢	具体的な内容
本人の感情や行動への接し方	<p>家族のアドバイスを本人が聞かない。どうすれば言うことを聞いてくれるか。</p> <p>家族の方には同じような相談が他の家族からもある場合、自分のところだけではないと言うと、安心する。</p> <p>家ではできないこともできると言い張る。</p> <p>わかっていても怒ってしまう。</p> <p>本人の感情に振り回され、ついつい優しくできない。</p> <p>同じ話を何回も聞かされ、とてもストレスになる。預かってくれるところはないか。治す薬はないか。</p> <p>本人の感情や行動への接し方について、物忘れ妄想や物忘れからくる悲観的な発言や様子について、どう接すればよいか。認知症以外のご病気について、何度説明しても忘れてしまい、身体の不調の原因が分からず悲観的になってしまう。</p>
本人の感情や行動への接し方、介護負担やストレス	<p>問題行動への理解と対応が難しい。感情的になって精神的な負担がある。</p>
介護負担やストレス	<p>妻が認知症のため、自分が家事をしなくてはならない。同居の娘も精神疾患を抱えていて頼れない。</p> <p>どこへ行く時も家の中でも、気にしていないといけない。</p> <p>いろいろなものをどんどん片付けてしまい、どこにあるかわからなくなる。できることもしなくなって、言っても聞いてくれない。</p> <p>介護負担やストレスに関する相談について、夜中に何度も起きるので、こちらも眠れず、辛い。</p> <p>仕事があるので介護の両立が難しく大変。</p> <p>目的の物に対して説明しても何度も聞き返されたり、理解ができないため、イライラしてしまう。</p> <p>思った以上に休みがない。はじめは介護ができると思っていたが、もうできない。</p> <p>できないことが増えていくので、負担が多くなり疲れる。疲れるとイライラする。</p> <p>どれぐらい（待機期間、費用）で施設に入れるか。新規の方の要介護度がどのぐらいか知りたい。症状はどれぐらい進むのか。</p>
介護負担やストレス、利用できるサービスや制度について	<p>体調不良について、時々胸が痛むなど。</p> <p>家では自分からの発信がないので、会話ができるところに行かせたい。</p>
利用できるサービスや制度について	<p>1人で家に居る間に何か起こると不安なので、入所サービスを利用したい。</p> <p>どんな支援があり受けることができるのか。</p> <p>ショートステイの使い方。</p>

選択肢	具体的な内容
利用できるサービスや制度について、経済的な不安	家族の介護負担が上がってきたことで、何か利用できるサービスはないか、進行遅らせるために人と関わることがよいと先生からデイサービスを勧められたなど、サービス利用や費用負担についての相談。
経済的な不安	金銭管理をさせてくれない。 経済的な不安について、将来、施設に入ることになったら費用が心配。おむつやパットの費用が高く、何回も交換はしたくない。
経済的な不安、将来の生活や入所の見通し	家族の介護負担が上がってきたことで、すぐに施設入所を考えたい、先々に備え施設入所を考えておきたいと施設入所や費用負担についての相談。
介護と仕事・家庭生活の両立	妻が認知症で自宅に1人にしておけないので、夫はシルバーをやめなければならなくなった。 仕事を辞めないといけないのか。 仕事をしていると、いくつもの役割をこなさなければならず、疲れるしストレスが溜まり、ついつい怒ってしまう。
将来の生活や入所の見通し	在宅での生活が困難になった場合の施設利用と経済的な負担。 施設入居について、どんな所があるのか。夫婦で入れるか。 要介護度3が出たら入所を考えているが、なかなかできない。離れて暮らしているので分からないことが多い。 本人の収入がなく、自分たちも金銭的な支援が難しいが施設に入ってほしい。 これから先、どうなるのか心配。自分も年を取るから自分の事も心配。家がいいけど住むのが難しくなれば施設も検討しないといけない。
家族自身の孤立感や気持ちの支え	家族自身の孤立感や気持ちの支えについて、実の娘が目の前にいても、その人が自分の娘や息子であることを忘れてしまっている。 介護の渦中にいる家族は、自分のおかれている身などに気が付かない。
その他	財産の管理で成年後見制度の利用について。
不明・無回答	認知症になった場合について、どのようなサービスが受けられるのか、役場に届出を出したりするのか、施設の入所の仕方。

(2) 活動における課題や必要な支援

問4 あなた（支援者）自身が、支援活動を行う上で感じている課題や困りごとは何ですか。
（自由記述）

記述内容
<p>以前よりは認知症を隠す家族は減ったと思うが、家族が認知症に対して理解が乏しいため、怒る・指示・説得するなど威圧的に接する家族もあり、特性を理解してもらうのに時間がかかることがある。</p> <p>サービス費用を出し惜しむ家族があり（どうせ治らない）、最初から「必要最小限のでよい」と決めている方は困る。</p> <p>ひとり暮らしや身寄りのない方は、活動する中で大きな課題がある。成年後見や身元保証などある程度の費用負担も大きな壁だが、そもそも認知症が進んでいると契約行為も難しい。</p>
<p>認知症の早期発見における医療機関との連携が不十分。</p>
<p>本人と家族の利害とか価値観が対立する場面において、ケアマネジャーの中立性が理解されにくく、どちらの味方かと受け取られやすく、支援調整が困難になることがある。</p> <p>認知症支援だけでなく、家族関係や生活課題など世帯全体の問題が重なることで、支援の調整がより難しくなる。</p>
<p>支援者の高齢化が課題となっている。</p>
<p>ひとり暮らしの方や老々介護の夫婦などは、買い物も自由にできず、交通手段がない家がある。</p>
<p>依存心が強いので、介護者が休まる時間がない、介護者も離れられない様子である。スタッフが少ないので、一人ひとりに対応できるとよい。</p>
<p>家族との調整の難しさで、本人の希望と家族の意向が一致しない場合があり、本人の身心の状態によりデイサービス以外のサービスを利用していた方が、その方のニーズやよりよいサービスを受けることができるのに家族の理解を得られないケースがある。支援が思うように進まないことへの葛藤や、本人・家族の状況に寄り添う中での精神的負担が大きい。</p> <p>また、家族の介護負担が大きく、支援の受け入れが難しいケースもある。人手不足による業務負担について、慢性的な人手不足により、一人あたりの業務量が多く、十分な時間をかけた支援が難しい。現場と事務の両立が難しく、疲労やストレスも課題だと思う。認知症ケアの知識や制度が変化する中で、研修参加や学習の時間が確保しにくい。</p>
<p>ゴミ出しのようにサービスだけでは担えない部分がある。</p> <p>認知症の方で、独居、特に親族のいない方については、成年後見制度の利用する場合においても、支援者としてどこまでできるのか等、グレーゾーンの部分まで対応しなければいけない部分がある。成年後見制度利用以前の段階で、日常生活生活自立支援事業の利用へのハードルが高い印象があり、利用ができない。</p>
<p>不穏になることがないような定期的な声かけが必要。他の利用者との交流を促したい。</p>
<p>すり込みやルーティンでの行動の確立は難しいこと。排泄はトイレでしてほしいこと。他居室への侵入は控えてほしいこと。帰宅や家族への電話希望など、本人の気持ちや希望にそぐえないことが多いこと。身を持って認知症の方の思考や世界を体験できないこと。打って返すようにはいかないこと。相手の望みがみえにくいこと。</p>
<p>認知症カフェにおける当事者への声かけや対応について、家族は自ら介護のこと等の話をするため、その間当事者がほったらかしのようにになっている。平等に声かけや傾聴を行いたいと思っているが、偏りが生じている。</p>

記述内容
支援者が必要と感じる支援と本人や家族自身が必要と感じる支援が異なるため、支援を拒否される場合がある。
本人を孤立させないよう、家族や地域とつながりたいが、制度やサービスが不足している。地域によって関わり方が異なる。サービスを行うにあたり、駐車場の確保が難しい（駐車禁止が多い）。

問5 支援活動をより円滑に行うために、必要なサポート等があれば教えてください。(自由記述)

記述内容
認知症への理解を深め、自分にできる支援活動を行いたい。キャラバンメイトやサポーターを増やして支援体制を強化する必要がある。
認知症講演会や関連する映画の上映会などの開催。
ひとり暮らしや身寄りのない方は、活動する中で大きな課題。成年後見制度や身元保証等、ある程度の費用負担も大きな壁だが、そもそも認知症が進んでいると契約行為も難しい。現金が手元がない場合、買い物や公共料金、医療費など知ることが怖くなることもある。
他市町村の関わり方などを知る機会。
東郷町役場にも認知症に関する専門職を配置するなど支援体制を強化してほしい。
MC I や初期の段階での気づきとつなぐなど、医療との連携。世帯全体に複数の課題を抱えるケースに対応する多職種による支援体制。
スタッフが少ないからボランティアに助けてもらっている。
介護者同士の情報交換が気軽にできる場所や集まりがあるとよい。
認知症の方の症状や感情に応じた声かけ・対応方法を学ぶ研修。複雑なケースや家族支援を行う際に、判断に迷う場面が多いため、相談対応に関する研修があるとよいと思う。
認知症の方だけでなく、家族も含めて複合的な課題がある場合もあるため、関係機関との情報交換やネットワークづくり。
他スタッフとの連携。レクリエーション手法の勉強。
家族の認知症に関する理解。専門職（介護・看護含め）の認知症に関する理解と、自身の介助を振り返り内省するワークの実施。専門職でも不適切な対応の職員は見受けられる。施設の事務職員も対象でよいと思う。認知症の方からの電話問い合わせや、館内でのトラブルや状態の把握がしやすくなるかと思う。・認知症カフェの存在はととてもありがたい。ぜひ、利用したいととても思う。
当事者に寄り添った居場所づくり（本人カフェなど）。リフレッシュ事業の見直し。
若年や元気な時から認知症の理解についての周知活動。
地域のつながり（見守り、声かけ、ゴミ出し等）。各地域に支援者用の駐車場を確保してほしい（空き家や有志の方に依頼し、多ければ多いほどよい）。
地域のカフェ、運動教室等への参加をお願いする。

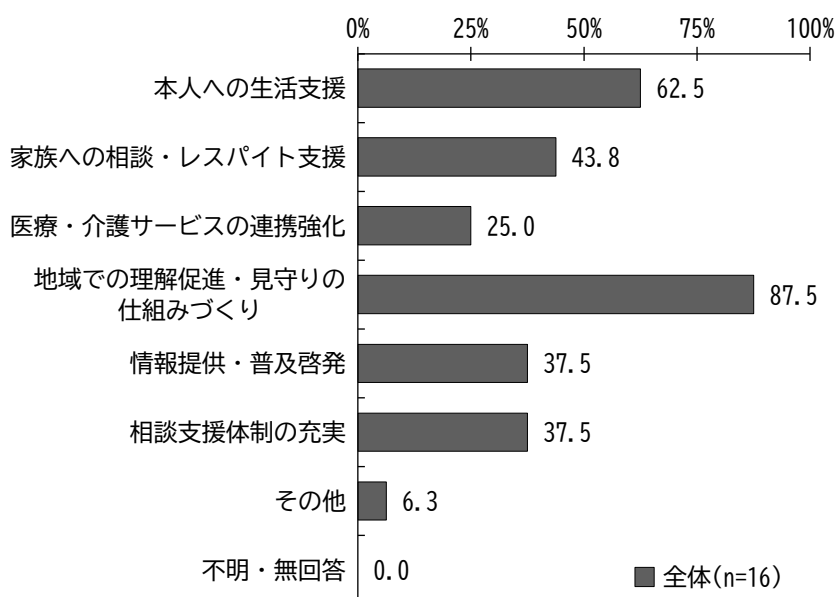
(3) 認知症支援での課題や必要な取組について

問6 現在の認知症支援で課題と感ずる点を教えてください。(自由記述)

記述内容
医療・福祉・介護関係者と連携して支援体制を構築しながら、町民に現状を知ってもらう機会をつくる。
町が行うことは難しいが、車の運転は免許を返納しても運転してしまう方があり、家族から何とかしてほしいと要望されるが、現状では車の鍵を隠すぐらいしかないのが困ることがある(運転をやめさせられないなら、地域包括支援センターで責任を取ってくれと言われる)。
家族会の不足。 医療機関からの連絡がない。
本人の生活課題だけでなく、家族間の対立や地域との関係性が崩れるなど、周辺環境全体への介入が必要となるケースが少なくない。支援は本人中心だが、実際には家族や地域との調整など広く対応が求められるので、1人のケアマネジャーがすべてを担うと困難な状況が生じやすい。
医療機関の認知症への理解不足。終末期の在宅を支える在宅医療の不足。かかりつけ医が在宅の限界をすぐに言い出し、本人の意思を無視して施設入所を勧めること。
気軽に相談できる場所。認知症になるのが怖いと思っている方に、どのように怖さを安心に変えられるかが課題。
地域全体での認知症の理解が十分とはいえず、誤解や偏見があるので、本人が安心して暮らし続けるための環境づくりが難しい。
地域(家族)での認知症の理解不足。 日常生活自立支援事業の活用等、制度の利用に関する課題。
スタッフ全員の接遇、コミュニケーション能力の向上。
家族の認知症症状への理解促進。ケアに当たる職員の教育。他の利用者からの理解を得ること。
スーパー、企業等の連携不足。地域における理解不足。
関係機関内での連携不足(情報共有)。
結局、認知症になると住み慣れた家では暮らせない(家族や地域、サービス等の支援が不足している)。
本人に本当のことは言えない。私自身も高齢なので、伝えなくていいことは伝えられない。

問7 町が重点的に取り組むべき認知症施策は何だと思えますか。(複数回答)

「地域での理解促進・見守りの仕組みづくり」が87.5%と最も高く、次いで「本人への生活支援」が62.5%となっています。



■ その他

記述内容
認知症施策検討会。

問7-1 問7で回答された項目について具体的にどんなことに取り組むべきか教えてください。(自由記述)

選択肢	具体的な内容
本人への生活支援	<p>今後、認知症高齢者は増加すると思うので、在宅サービスや施設サービスを充実させる。</p> <p>掃除、洗濯などの支援。</p> <p>本人への生活支援。認知症の方が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、認知症への理解を地域で深めることが、本人にとって暮らしやすい環境へとつながる。</p> <p>保存食の配布。</p> <p>自宅からの外出支援。</p> <p>地域を含めた介護保険サービス以外のインフォーマルサービスの充実。</p>
本人への生活支援、家族への相談・レスパイト支援	<p>フォーマルなサービス以外にインフォーマルなサービス利用(本人に合ったもの)。家族教育・認知症カフェ、一体的な支援など他者と交流できる場が必要。</p>
家族への相談・レスパイト支援	<p>家族への相談・レスパイト支援について、相談を受けた際には、認知症専門の窓口や集まりを紹介する。認知症カフェの案内を行う。介護保険サービスの案内を行う。施設紹介を行う。</p>

選択肢	具体的な内容
	<p>家族への相談・レスパイト支援について、介護負担の軽減は課題であり、家族が気軽に相談できる窓口や休息（レスパイト）を確保できるサービスの充実が必要。家族が安心して介護を続けられる環境づくりが必要。</p> <p>地域包括支援センターだけでなく、東郷町役場でも専門職による助言をしてほしい。</p>
医療・介護サービスの連携強化、地域での理解促進・見守りの仕組みづくり	医療の中でも在宅医療との連携も必要となる。地域との連携も必要。地域での啓発活動にもっと力を入れる。人生100年時代において認知症は自分ごとである。
地域での理解促進・見守りの仕組みづくり	<p>町の職員・企業向けとして、認知症の方の理解・相談・情報共有ができる体制づくり。</p> <p>地域での理解促進・見守りの仕組みづくり。地域での認知症への理解を深める啓発活動や、地域住民や企業、学校などが協力して見守れる体制づくり。</p> <p>一緒に買い物に行くことやゴミ出しなど日常の小さな支援だけで過ごすことができる方が多いと思うが、介護保険制度を使わない方に地域としての助け合いのグループがあればよい。</p> <p>認知症サポーターは高齢者サロンや小・中学校で実施しているが、小・中学生の親世代など、若い方に対しても認知症の理解を促進するような講座などを開催するのはどうか。</p> <p>地域の見守り支援体制がさらに充実するために、地域へ出向いての捜索訓練や健康フェスティバルなどを開催し、サポーターを養成する。</p> <p>地域での理解促進・見守りの仕組みづくりについて、認知症カフェのような民間支援事業者に対する援助（ガイダンスや金銭支援等）。支援事業者やボランティアの母数を増やし、拡散して間接的に認知症という名前を知ってもらう。</p> <p>参加しやすい支援事業やボランティアをつくる。</p> <p>高齢者で独居の方も多いと思うので、マンション、団地などはそれぞれの棟に集まりがあってよいのではないかと思う。回覧板に認知症に関するチラシを入れる（こういう人を見かけたら「認知症かも？」など）。</p> <p>見守り活動を行うための駐車場の確保。</p>
情報提供・普及啓発	<p>ひとり暮らし、老々介護の自宅への定期的な訪問。</p> <p>人が集まる場所やイベントには必ずチラシなどの啓発物を紹介し、普及させる。</p> <p>認知症サポーター養成講座を企業向け、一般向け、親子向けなど多様化する。</p>
相談支援体制の充実	<p>老々介護では何をどれだけ支援してもらえるのか等、何をどこへ相談したらいいかわからない。</p> <p>相談支援体制の充実。相談窓口があることの周知拡散。</p> <p>相談窓口の出張版の充実。</p> <p>認知症カフェ、一体的支援、介護予防教室、家族教室、そなえの講座等。</p>

選択肢	具体的な内容
その他	事業計画（内容）についての話し合いをもう少し余裕をもって決めることができるとうい。R7のテーマについて、多方面から意見があったため、余裕をもって物事を決定できればよいと思う。
不明・無回答	<p>高齢者がよく行くお店で認知症サポーター養成講座を行い、生活に関わる人から理解者を増やす。</p> <p>小・中学校の行事の1つを増やし、老人クラブと一緒に9月にマリーゴールドを植える。アサガオで使用した植木鉢を再利用しマリーゴールドを育てる。</p> <p>授業参観において、親子で認知症サポーター養成講座を受けてもらう。</p> <p>社会参加へのステップになる場所や関係づくり。</p> <p>地域（家族）の認知症に関する理解と情報を周知啓発する必要があるため、認知症サポーター養成講座や広報での発信をこまめに行う。</p> <p>独居の方の場合、できなくなってきたことを介護サービスのみで支援するのは困難ため、ゴミ出しの支援等、対応の選択肢を増やせるようにする。</p> <p>近所に隠すではなく、理解・協力ができる地域づくり。民生委員から上手く声を吸いあげる、声をあげられやすい地域づくり。</p> <p>医療関係介護連携。相談窓口の気軽さ。役場の担当課の人数不足</p>

問8 認知症の人が地域で安心して暮らすために、地域の理解や協力体制についてどのように感じますか。（自由記述）

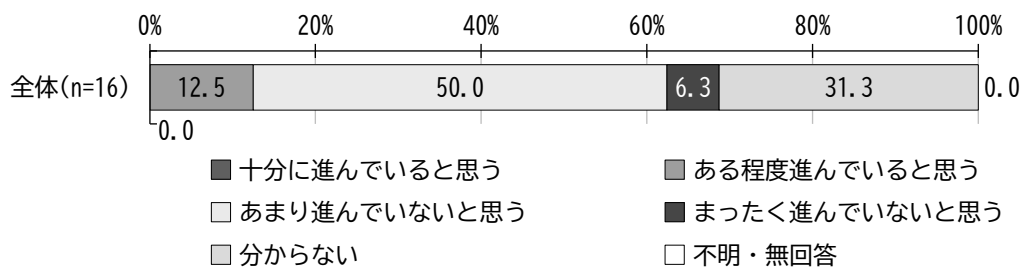
記述内容
区や自治会単位で協力体制を構築する必要がある。商工会やJAなどの協力・連携も必要。
多職種カンファレンスにて、スーパーで同じものを買ってしまう方の事例を取り上げた。スーパー等との連携を行い、スーパーの店員が気軽に専門機関等に相談できる体制を構築できるとよいと思った。
地域にどれだけの認知症の方がいるのかを知ってもらおう。症状をわかりやすく提示・表記し、「もしかしてあの人ではないか。」と連想しやすくする。
相談窓口があることを企業にも知ってもらおう。
小・中学校での認知症サポーターなどは、こどもの理解とともに親に伝えているので、効率的で住民への協力体制づくりとしてはとても良いことだと思う。できれば、認知症の方が子ども達と話し合うことができないかと思うが、なかなか難しい。
認知症への地域の偏見をなくすような啓発事業（認知症サポーター養成講座、レベルアップ研修等）の開催。認知症カフェに参加してもらい、本人や家族とコミュニケーションをとってもらおう。してあげる支援ではなく、同じ人としてパートナーとなり、できないことを手伝う。
認知症サポーターの活動範囲の広がりにより、理解も深まっていると感じる。継続の必要がある。
認知症を他人事と考えてる人がまだまだ多いように感じる。
認知症への理解が浅く、どうしても偏見を持ってしまっているように思うため、認知症への理解を深めて、地域全体でサポートができる仕組みがあるといいと思う。

記述内容
隣近所やこれまでの付き合いの中で築かれてきた関係性の中で、緩やかな協力関係が成り立っているケースもある。特別なことをしなくても、変わらず関わりを続けてくれていること自体が、認知症の人にとって大きな支えとなっている。新たな役割を求めるのではなく、地域で支え続けてくれている方へのフォローや後方支援を行って、「あなたの関わりがあるからこそ、認知症になっても地域で生活できている。」というメッセージを丁寧に伝えて、その価値を言葉にして伝えていくことが大切かなと思っている。
見守り、声かけ、簡単な家事支援など（ゴミ出し、外出支援など）。
自治会のコミュニケーションづくり。バスの時間。
近所の方によっては、気にかけて下さる方もあり、ゴミ出しの部分を助けてくれる方もいる。公共交通機関について、時刻表など地区に応じた対応があると、その方の状態によっては利用できるのではないかな。
巡回バスの交通機関が充実していてよいと思います。

(4) 本人の参画等について

問9 町の施策等に認知症の本人やその家族の意見が反映されたり、参加・参画がどの程度進んでいると思いますか。(単数回答)

『進んでいると思う』（「十分に進んでいると思う」と「ある程度進んでいると思う」の合算）が12.5%、『進んでいないと思う』（「あまり進んでいないと思う」と「まったく進んでいないと思う」の合算）が56.3%、「分からない」が31.3%となっています。



問9-1 そのように思う理由を教えてください。(自由記述)

選択肢	具体的な内容
ある程度進んでいると思う	認知症カフェがあること。 東郷町役場で認知症についての研修や集まりがあること。
	認知症カフェのお手伝いに私自身が出席したところ、近所の方が夫婦で出席してびっくりした。
あまり進んでいないと思う	認知症カフェや認知症強化月間の取り組みは一定の成果があると思いますが、町民の意見が反映され、参加・参画が進んでいるとは思えない。
	認知症本人や家族を把握できていないので、気持ちを聞くことが十分にできていないと思う。
	公共交通機関の便数が少ないと聞く。

選択肢	具体的な内容
	参加・参画するためのお知らせ紙面の文字が小さくて読みにくいと聞くことがある。
	ひとり暮らしや老々介護の方へのイベントのお知らせや、そのための交通手段等がわかりにくい。
	昔に比べると教室やカフェが増えた。足を運べる場所が増え、そこにボランティアに行く人も増えてきた。一方で、認知症になったらどうしようと不安に感じる人は多い。安心してこのまちに住んでもらえるよう、いつでも相談できて助けてもらえるように、笑顔で悩みを聞く体制を目指してほしい。
	意見が反映される機会が少ない。
	特に本人の意見を聴く場や時間が十分でないため、本人の意見が反映されていない。
まったく進んでいないと思う	様々な事業があると思うが、認知症本人や家族の参加がほとんどない。認知症で困っている家庭も多くあると思うが、望んでいるような内容ではないし、参加もできない日程（平日など）になっている。本当に困っている人が救われていない状況だと思う。
分からない	本人や家族の声は一部取り入れられていると思うが、どれくらい取り上げられているのかが分からない。もっと幅広く当事者の方がより参加しやすい仕組みづくりがあるといいのかなと思う。
	今年度、地域包括支援センターに配属され1年目であるため、比較が難しい。

問 10 認知症の本人がまちの取組や活動に参画しやすくなるためには、どのような工夫や配慮が必要だと思いますか。（自由記述）

記述内容
施策の紹介などでも家族で認知症を抱える方へのお知らせが中心で、本人が理解しやすい紹介になっていないが、紙面の都合もありやむを得ない。
安心して参画してもらうため、わかりやすい内容（説明）、場所、必要であれば支援者もサポートする体制が必要。
介護保険などの利用においても、家族に説明するのではなく、まずは本人に説明してほしい。認知症カフェへの参加を誘うときなど、すべてに対して丁寧にわかりやすく話す。
病院で確定診断がついた初期の頃から（病気の受容の段階から）、行政とつなぐコーディネーターがいれば信頼関係が築きやすいと思う。
安心できる「顔なじみ」がいる。声掛け、誘い出し、パートナー。「役に立てる」ことを実感する。
地域の体操教室等に本人や家族が参加でき地域で見守る。家族本人の気持ちを大事に進める。本人は認知症だといいながら教室や集まりに参加し、周りの参加者に助けてもらいながらできることをしている。他の参加者も普通に接している。そういうことできるとよいと思う。
デイサービスと自治体・企業・商業施設が連携し、外出や交流、企業の手伝いとして何かを生産する等の機会をつくることで、認知症の方が安心して地域に参加できる環境が整うと思います。商業施設での買い物や散歩を通じて交流が生まれ、見守りや声かけの協力により、地域全体で支える仕組みが強化され、社会参加や地域の活性化にもつながるのではないかと思います。
他者との交流の場としてデイサービスを開放する。体験利用者として受け入れる事を可能とする取り組み。
地域の方の理解。
少人数の場で、気軽に参加できる雰囲気づくり。支援者による付き添いやサポート。

記述内容
通いの場への付き添いやサポートがある。関係性。地域とのつながり。
本人も認知症になって不安が大きいので、周りの人の理解が必要。本人の不安を軽減してあげられるような支援が必要だと思う。

問 11 今後、認知症のご本人やご家族が地域の取組や町の施策に参加しやすくなるためには、どのような取組や支援があったら良いと思いますか。(自由記述)

記述内容
認知症になることは特別なことではないと地域の人に伝え続けること。認知症の本人が病気を受容できる支援体制の強化として、本人同士の交流の場。そこに連れ出せる技術を持つ専門職の育成。
認知症カフェを広げる。カフェでイベントを開催する。
本人や家族様同士の交流の場。
現在、東郷町が取り組んでいる状態が良いと思います。地域でのサロン活動、認知症カフェ等。
家族など、最近スマホを円滑に使用する方も増えてきたと感じる。一方で、町のホームページの内容がわかりにくいと聞く。SNSの活用ではなく、書体の工夫や簡易的に認知症テストができるとよい。「別ページに移動します」があると、高齢者は抵抗がある。
広報（SNS等）での本人や家族への継続的な発信と、関わっている支援者へのPRをしていく。
情報を知ることができる場所があること。
デイサービスと自治体や企業、商業施設が連携することで、地域の中に交流ややりがい生まれ、認知症の方が安心して外出し、地域の一員として過ごせる環境づくりが進むのではないかと思います。デイサービスの利用者が商業施設を訪れることで、買い物や散歩など日常的な活動が広がり、交流が生まれると思う。企業と連携することで、地域全体で支える仕組みが強化され、認知症の方の社会参加を促して、地域の活性化にもつながると思う。
住民の皆さんに現状を知ってもらい、自分にできることから取り組んでもらえるような機会をつくる必要があると思う。
老人クラブなど地域での活動に参加していない方の家への訪問により、現状を聞き取り、支援が広げられたらよいと思う。
リフレッシュ事業の見直し。開催することを目的とせず、参加者数が増えるためにどのような内容がよいかを十分に検討して実施していきたい。
働いている家族も多く、参加したくてもできない人が多いと思うので、少しでも参加しやすいような日程や方法を検討した方がよいと思う（今まで通りでは難しいと思う）。

(5) その他自由回答

問 12 町が認知症施策を進める上で意見・要望があればご記入ください。(自由記述)

記述内容
限られた人員の中で一生懸命取り組んでいると感じる。また、こちらが十分に応えられていないとも感じる。地域包括支援センターとしても、認知症地域推進員の定着化が令和8年度からの重点の1つと考えている。
人手の確保。 サポーターの使い方として、受けて終わりにならないようにすること。 体操教室でのMC I 予防体操など。
認知症サポーター養成講座の開催や、商店・公共施設での見守り体制の強化など、地域全体で支える仕組みを広げてほしい。
コンビニや飲食店のスタッフ、集合住宅に居住している方などに、「認知症の人とはこういう人」という認識があると嬉しい。
関係機関内での情報共有時における個人情報の開示について。地域包括支援センターから役場への問い合わせの時に、情報を教えてもらえずに困ることがある。
生活を支援する上で、介護サービスで支援できない部分（ゴミ出し、金銭管理など）について、選択肢が増えることや日常生活自立支援事業等の制度がスムーズに利用できる環境を整えてもらおうと支援者としては助かる。
リフレッシュ事業について、参加できる人が少ないので、休日に行う方法や参加方式ではなく、おたすけチケットのようなものを配布すると、今よりは参加者も増えると思います。本当に困っている人が参加できるとよいと思う。今の介護者は仕事をしていたり、遠方に住んでいる人が多く、直接的な介護が難しいと思う。離れていても安心できるよう、地域や行政のサービスが充実するとよいと思う。
計画策定にあたり、認知症施策の検証を行ってさらに推進してもらえることを願う。